

2 各ゾーンのまちづくりの方向

(1) 都心部全体にかかわる事項

人と環境にやさしいまちづくり

- 市民が安心して快適に暮らせ、また、訪れる人々を温かく迎えるためにも、駅や周辺道路などのバリアフリー化を推進するとともに、高齢者、障害者をはじめ子どもや妊婦、外国人など誰もが使いやすい都市施設や交通施設、建築物を目指すなど、ユニバーサルデザインの視点に立った、人にやさしいまちづくりを進めます。



4カ国語で表示された案内板



多機能トイレ

- 道路、公園などでの植栽や水の活用、建築物における緑化や太陽光、雨水等自然資源の活用を促すとともに、公共交通や自転車利用の促進、歩行環境の整備を図るなど環境に配慮したまちづくりを進めます。

快適な交通環境づくり

- 鉄道高架を契機とし、JR西日本・山陽電鉄、バス等の公共交通の乗り継ぎの利便性の向上に努めるなど、きめ細かな公共交通サービスの提供を促進します。また、バス路線網の再編や、都心部の交通拠点としての機能をさらに強化するとともに、市内外から都心部各地へのアクセスをさらに便利にするよう努めます。
- 姫路駅周辺など都心中心部では、過度な自動車の流入を抑制し、歩いて楽しい、うるおいのあるまちづくりを進めます。このため、環状道路網の形成を図るなど道路の体系的な整備を進めるとともに、道路交通情報の提供や都心縁辺部における駐車場の配置等により、道路交通の円滑化に努めます。

(2) 姫路駅を中心とするゾーン ー出会いと交流ー

現状

姫路駅を中心とするゾーンは本市のほぼ中央に位置し、姫路駅を中心に南北2つの地区で形成されています。

姫路駅北地区は、JR 姫路駅（在来線）、新幹線姫路駅、山陽姫路駅及び市営バス・神姫バスターミナルが集中し、播磨地域の社会・経済活動を支える重要な交通拠点となっています。現在、JR 山陽本線等連続立体交差事業、姫路駅周辺土地区画整理事業、関連道路事業、キャストィ21計画が進行しており、新たな都市基盤の整備と高次都市機能の導入により、21世紀の魅力と活力のある都市拠点を目指したまちづくりが進められています。

姫路駅南地区は、昭和30年代半ばからの土地区画整理事業による都市基盤整備、山陽新幹線や姫路バイパスの開通、市庁舎の建設を経て、駅北地区と相対する新しい市街地として土地の高度利用が進んでおり、新しい業務・行政サービス拠点が形成されています。



姫路駅



バスターミナル付近



北駅前広場



駅南大路

目指すべき方向

鉄道高架事業や姫路駅周辺土地区画整理事業とあわせ、キャストィ 21 計画の推進により高次都市機能を集積し、播磨の中核都市、西播磨テクノポリスの母都市として、21 世紀に大きく躍進する魅力と活力あふれる都心の創出を目指します。

時代をリードする魅力あふれる商業・業務地づくり

- 時代の変化に敏感な若者の多様なニーズにこたえ、新しい流れをリードし創造する夢のある店舗の立地を促進します。
- 社会の成熟化に対応し、市民生活の質の充実を図るためにも、文化・教育、医療・健康といった付加価値の高い都市的サービス産業などの立地を促進します。

人・もの・情報の交流の空間づくり

- 西播磨テクノポリスの母都市、また、播磨圏域の産業の中心地として、先端技術をはじめ、新製品などの展示、さらには、国際的、広域的な交流が深まる会議の場などとして、情報交流やコンベンション機能の立地を図ります。
- 市民が日常かつ主体的に利用でき、さまざまな活動を通して自己実現ができる多様な交流の場、また、生涯学習や健康の増進など市民の生活の質を高める場づくりを進めます。

播磨の中核都市にふさわしい顔づくり

- 鉄道高架事業に伴い拡大・再整備される新北駅前広場は、交通結節点機能の拡充はもとより、誰もが利用しやすい交流広場として、また、播磨の中核都市の顔としてふさわしい、機能とゆとり、うるおいを兼ね備えた空間として整備します。
- 新姫路駅やその周辺は、姫路城への眺望や城との調和に配慮するとともに、播磨の中核都市の新しい玄関口としてふさわしい、魅力あふれる景観となるよう努めます。
- 都市計画法による規制・誘導や民間の立地意欲を高める方策などに取り組み、新たな賑わいと活力の創出を図ります。

もてなしの都市・姫路の拠点づくり

- 都市型ホテルの立地をはじめ、全国レベルの会議の開催など多様なニーズに対応できる宿泊環境の整備を促進します。
- 新姫路駅を利用する観光客や来街者を対象に、播磨地域の地場産品を扱う店舗の立地を促進するとともに、観光案内所などを整備し、誰もが分かりやすい観光案内サービスの提供に努めます。
- 鉄道高架事業に伴って生じる高架下は、自由通路等によって南北市街地の一体化を強化するほか、圏域住民、観光客の利便性向上のための機能を導入し、姫路駅周辺の拠点性向上に結びつけます。

人にやさしい交通環境づくり

- 歩行者、自転車や公共交通を重視した交通施設を配置し、回遊性の高い快適な歩行環境の形成を図ります。
- 交通バリアフリーを推進し、高齢者や障害者はもとより誰もが安全・快適に利用できる交通施設の整備を進めます。

(3) 大手前通り・商店街を中心とするゾーン —楽しみと回遊—

現状

震災から復興した大手前通り・商店街を中心とするゾーンは、商業ビル、百貨店、商店街などの商業施設、金融機関などの業務施設、映画館などの娯楽施設が集積するエリアが形成され、播磨地域を代表する商業・業務拠点となっています。

特に、大手前通り周辺には、戦後の復興を支え城下町の伝統を受け継ぐ御幸通り、二階町、西二階町、小溝筋などの商店街、魚町、塩町などの飲食店街等が広がっています。



大手前通り



御幸通り



小溝筋



西二階町

目指すべき方向

既存の商業・業務機能に加え、魅力ある個店づくりや特色ある商業・業務街区の形成、また、多彩なイベントの開催などにより楽しく賑わいのある都心を目指します。また、城下町・姫路のイメージの再現や世界文化遺産姫路城へのプロムナードとしての役割を強化し、市民はもとより来街者の都心回遊の拡大を図ります。

さらに、中心市街地活性化の観点からも、都心居住を促進します。

感動と楽しさあふれる場づくり

- 中心的な商店街においては、商業基盤施設の整備や交流・憩いの空間づくりとともに、魅力ある個店づくりや人気店舗の導入を促し、それぞれ特色ある商業街区の形成を促進します。
- 大手前通りはシンボルロードとして、城と調和した景観形成を図るとともに、歩道空間の活用など市民や来街者が安心して楽しく歩ける公共空間として、また、オープンカフェやイベントの導入等によるにぎわい空間としての活用を図ります。

人が集い、活気あふれる賑わいの場づくり

- 姫路らしさを演出する「お城まつり」や「ゆかたまつり」をはじめ多彩なイベントを恒常的に展開するとともに、市民や商店街などが新たに組み込むイベントに対する支援をおこない、国の内外から人々が集い、賑わう場づくりを進めます。
- ライトアップやイルミネーションなどにより、灯りや光を活用したまちの演出の促進や夜間における安全・安心のまちづくりを進めることにより、市民のナイトライフの充実を図るとともに、来街者の飲食店街や商店街への回遊性を高めます。

城下町・姫路の再生と都心回遊の場づくり

- 城下町のなごりを留める歴史的資源を浮き彫らせることにより城下町・姫路のイメージを創出するとともに、商店街アーケードの特性を活かし、来街者の回遊性を高めます。
- 大手前通りや主要な通りについては、姫路駅から姫路城へのプロムナードとして位置づけ、城と調和する色彩やファサードの工夫、姫路の地場産品を扱う商店や飲食店の立地を促し、城周辺のみならず中心市街地への来街者の回遊の拡大を促進します。

都心居住の推進による生活の場づくり

- 人口の減少に歯止めをかけ、都心部の活性化を図るためにも、都心に集積されている都市施設や空き店舗等の既存ストックを活用し、子育て世帯、単身者世帯、高齢者世帯などの幅広い世代が、それぞれのライフスタイルに応じて多様な住まい方を選択し、都心に居住することを促進します。
- ポケットパークなどによる緑化の推進や互いに助け合える地域コミュニティづくり、さらには、安全・安心で住みよい環境の形成を図ります。

(4) 姫路城を中心とするゾーン -市民の誇りとアイデンティティー-

現状

城を中心とする特別史跡地は、姫路城の昭和の大修理を経て、濠、土塁、石垣等姫路公園の整備が進められ、平成5年(1993年)12月には世界文化遺産に登録されるなど、城と一体となって歴史的・文化的雰囲気醸し出される水と緑豊かな都市空間となっています。

また、城周辺には美術館、博物館などの文化施設、小・中学校、高等学校などの教育施設などが集積し、世界に誇ることのできる優れた文化のシンボルゾーンとなっています。

さらに、戦災を免れた地区では、伝統的な町家・商家など城下町のなごりを留める歴史的な町並みや道筋が今も残っています。



家老屋敷跡公園より城を望む



天守より東部の文化施設を望む



東部中濠



伝統的な建物が残る小利木町

目指すべき方向

世界文化遺産姫路城の保全と継承に力を注ぐとともに、城と調和した景観の形成を図ります。

姫路城の周辺は、文化のシンボルゾーンとして既存文化施設等の充実と活用を図り、より魅力的で親しめる空間とするための整備を推進します。

そして、姫路城に象徴される歴史的・文化的資源を活用し、都心の魅力さをさらに高め、ホスピタリティあふれる国際観光都市を目指します。

世界に誇る遺産の保全と継承

- 世界文化遺産姫路城の優美な姿を後世に継承していくため、保存修理はもとより、城郭の調査・研究を進め、また、城の修理技術を後世に引き継ぐため、伝統的保存修理技術の継承に努めます。
- 姫路市のシンボルである姫路城周辺には、好古園、美術館、博物館、図書館などの文化施設等が集積し、水と緑に包まれ市民や来街者への潤いと憩いの場となっていますが、世界に誇る城にふさわしく、より魅力的で親しまれる空間となるよう整備を進めます。

城の景観保全と歴史的な雰囲気づくり

- 世界文化遺産姫路城を保全するバッファゾーンでは、城の景観を阻害する要因の排除に努め、姫路城と調和した景観形成を図ります。
- 城下町のなごりを留める道筋では、歴史的な雰囲気の漂う「歴史の道」として整備するとともに、町家等の歴史的建築物の保全を図り、町並みと道とが調和した一体感のあるまちづくりを推進します。

歴史・伝統・文化を活かした国際観光都市づくり

- 姫路城をはじめ、城周辺の文化施設、城下町の遺構や「ゆかたまつり」、「祭り屋台イベント」など姫路を象徴する歴史・伝統・文化などの資源を活用して歴史的情緒を創出するとともに、城下町・姫路のイメージや都市の魅力を発信し、国の内外から人々が集い、交流し、賑わう国際観光都市づくりを進めます。
- 姫路フィルムコミッション活動を積極的に展開するなど、姫路の魅力を内外に情報発信します。

もてなしの心あふれるまちづくり

- 城を望む眺望場所や城周辺の文化施設等の回遊ルートを設定するとともに、来街者に分かりやすい観光情報の提供に努めます。
- ボランティア案内ガイドの育成・充実を図るなど、観光客や来街者を温かくもてなす人づくりに努めます。